

[06] エネルギー史研究ノート表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/13832>

出版情報：エネルギー史研究ノート．6，1976-03-15．エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：

編集後記

支社は呉服町中元寺に移転開業す。徳島県那賀郡の暴風被害窮民へ五百十七円貳拾六銭八厘を補助し、三千五拾七円三拾銭貳厘を貸与

3

■料理屋繁昌す、其原因は頼母敷講会連の利用のほかに米価騰貴による米商人、金貸商のためなり。■髪は切らず。○社説（二十三年後ハ西南人ノ東北人ニ費弊ヲ取ラザランコトヲ望ム）

4

○寄書 ■鎮西日報ノ再興近キニ有ラン（郷の浦 吉浦正輔）

■真似の病（露国） ■不景氣中の好景氣（中外物価新報）

○ 前号まで十二月と五月（又は六月）の発行を守ってきましたが、今回は、十二月発行が大幅におくられて三月の発行になつてしまいました。原稿は充分集まっていたのですが、編集者が『博多津要録』や『薩摩藩の構造と展開』の仕事に追われていたためです。それともう一つは、巻頭にもつてこれる研究論文が是非欲しくもあつたからです。

○ 本誌もだんだん軌道に乗ってきましたので、少しずつ内容を高めたいものです。とくに、若い研究者諸君の奮起を望むものです。私自身はこの方面の専門でなく、今後もそれほど成果を挙げ得ると思いませんが、少くとも問題の重要性を知り、エネルギー史の研究を提唱する以上、何とかその火を点し続け、燃えさからせたいと念願しています。

○ 昨年十二月二十四日、飯塚の麻生セメント本社の社史資料室で研究会をしました。少人数の会でしたが、田中直樹、東定宣昌両君が報告をし、質疑応答をかわして、実に充実した午後でした。年末のあわただしいさなか、静かに重厚な報告を聞いて、心の落着きと学問へのフアイトを覚ええました。本号巻頭の二論文がそれです。

○ もちろん本誌は研究ノートであつて、学術論文ばかりを指してはいません。それぞれの郷土に根ざした報告、資料紹介、随想等も貴重と思えます。また、現在までの執筆者はもとより、もっと新しい層も開拓したいものです。民間で黙々

と調査・研究をされている方々を是非御紹介下さい。さらに東京、関西等の若い研究者諸君の原稿も待っています。それぞれの持場でたしかめ得たこと、疑問の数々、蒐集した諸資料の紹介など……、これらを持ち寄って、共通の広場を盛り豊かなところとしたいと思います。

○ 近く『九州石炭礦業史資料目録』第二集が刊行されます。御批判、御教示をお寄せ下さい。引き続き第三集の編集にかかります。目録作成に意欲ある方は御連絡下さい。（S・H）

『エネルギー史研究ノート』 第六号

一九七六年三月十三日印刷
一九七六年三月十五日発行

編集

九州大学経済学部日本経済史研究室内
エネルギー史研究会

発行

福岡市中央区薬院四丁目一三一五一
財団法人 西日本文化協会
電話〇九二五三二四五三八代表
振替口座 福岡一五九一八